

農学部創立50周年記念特別講演要旨掲載に寄せて

農学部研究報告編集委員長 西 山 久 徳

『生命科学と地球環境』というテーマで、農学部創立の『記念特別講演』が、1995年10月28日(土)中央校舎 AV ホールで、盛大に、有意義に行なわれた。

特別講師は、農学博士尾川昭三氏で、演題は『現代の生殖工学』、続いて、理学博士古澤満氏で、演題は『DNA の新進化論』、そして、農学博士武内和彦氏で、演題は『東アジアの生物資源環境研究』(順序は講演順)で、いずれも、この分野で先端的な研究業績をあげ、科学の進歩・発展と、学界の発展に多大なる功績を挙げ、尚今も、継続的に高度な成果を着々と実現しておられる方々である。

その方々が、多忙な学問研究のなか、貴重な時間を態さいて、本学のために、記念講演を快諾され、貴重な学説をわかり易く、精緻にわたって御講演頂き、有難く、且又、その講演概要の掲載を御了承頂き、感謝に耐えず、衷心より御礼申上げる次第である。

いずれの研究も貴重であり、また、複雑な原理であるから、門外漢が、「概要」を更に要約することは、間違いの元であり、学説を歪曲することになりかねない。そこで、目についた用語を「概要」から、独断と偏見で、拾いあげてみる。

尾川氏は、「生殖工学」、「有用動物生産」、「食糧生産への新しい試み」、「特定の有用動物以外の動物や野生動物の遺伝資源の効果的保存」、つまり、私なりに言えば、「動物という自然の再生産過程」を問題にしている。

古澤氏は、「ダーウィン」、「自然淘汰説」、「進化説」、「分子生物学者知見」、「進化の総合説」、「近代進化論」、「DNAと新進化論」、「進化の不均衡説」、「進化の時間短縮」、つまり、新進化の原理を問題にしている。

武内氏は、「地球環境問題」、「東アジアの地球環境問題への対応」、「生物資源の海外への過度の輸出による地域の環境劣化」、「持続的土地利用システムの確立」、「中国半乾燥地域の砂漠化問題」、つまり、持続的土地利用と過度の輸出の影響の問題である。

思うに、三氏の講演は社会科学的にも、貴重である。まず、「動植物という自然の再生産過程」の研究は、生命の再生産に加えて、食糧問題の解決に重要

な示唆をもたらすものである。次いで、生物進化は平和と共に人類永遠の課題であるが、生物学以外にも当初は資本主義の世界観や、地理学にそしてその後制度学派にも影響を与え、今日に到っている。最後に、「輸出」の問題は、今日人類の世界的諸問題のもとであるが、多国籍企業の急増により、「新国際分業」と「環境破壊」を惹き起しながら、重要性を漸増させている。

貴重な三氏の講演は、永く本学の歴史に刻まれるであろう。深く感謝し謝辞とする。

1995年11月30日